

「米海軍軍艦の函館港入港に関する申し入れ」を実施

連合北海道は、米海軍掃海艦「チーフ」が7月13日から16日に函館港へ「親善」を目的として入港することを受け、7月6日在札幌米国総領事館へ、12日には北海道に対し、これに反対するよう申し入れを行った。



申し入れでは、「友好親善」の名の下、繫留経費すら支払わず入港すること、また地位協定と照らし合わせても、度重なる入港が「友好親善」とは考えられず、米軍の調査および訓練であると指摘。市民に軍事的役割を平時から準備させるものであり、北東アジア地域の軍事的緊張をいたずらに高め、平和を願う市民の思いと逆行すると訴えた。

これに対し、在札幌米国総領事館レイチェル・ブルネットーチェン首席領事は「貴重な意見として承った。こうした要請があった旨、在日米軍に伝える。入港については安全第一で行っていきたい。」と述べた。

また、北海道辻井宏文危機対策局長は「道民の安全・安心が第一。6月29日には在札幌米国総領事館に対し、乗員の規律の厳正な保持と、公共の安全の確保など事故防止に万全を期するよう要請を行っており、引き続き注視していきたい。」とした。これに対し連合北海道は、「商業港としてのイメージの悪化や経済活動への支障が発生し不利益等も懸念される。平和を願う道民の意向を踏まえると、連合北海道としては受け入れるわけにはいかない。」と改めて反対の意思を伝えるとともに、政府と米国へ伝達するよう強く要請した。